

斎賀医院壁新聞

文献情報と院内案内 斎賀医院ホームページに戻る場合戻るボタンをおしてください

検索ボックス

<< 2021年07月 >>

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

最近の記事

- (07/24) [WPWパターンとWPW症候群](#)
- (07/19) [1回目はアストラゼネカで2回目はファイザー](#)
- (07/16) [妊娠女性におけるmRNAコロナワクチンの安全性 再放送 妊娠女性におけるmRNAコロナワクチンの安全性 再放送](#)
- (07/15) [ファイザーのワクチンは3回接種が必要か？](#)
- (07/13) [RSウイルスについて: Respiratory syncytial virus](#)

最近のコメント

- [妊娠女性におけるmRNAコロナワクチンの安全性 再放送 妊娠女性におけるmRNAコロナワクチンの安全性 再放送](#) by (07/18)
- [中等症以上の喘息治療は3剤併用療法が有効?](#) by (07/11)
- [大腸ファイバー検査の適正な間隔は?](#) by (07/07)
- [自宅療養の新型コロナ軽症患者における長期症状](#) by (07/06)
- [ファイザーのワクチンによる心筋炎](#) by (07/06)

タグクラウド

カテゴリ

- [小児科](#)(198)
- [循環器](#)(218)
- [消化器・PPI](#)(139)
- [感染症・衛生](#)(225)
- [糖尿病](#)(118)
- [喘息・呼吸器・アレルギー](#)(95)
- [インフルエンザ](#)(105)
- [肝臓・肝炎](#)(61)
- [薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導](#)(47)

<< [新型コロナに関しての患者さんへのお願い](#) | [TOP](#) | [炎症性腸疾患の病態生理・その2](#) >>

2021年01月12日

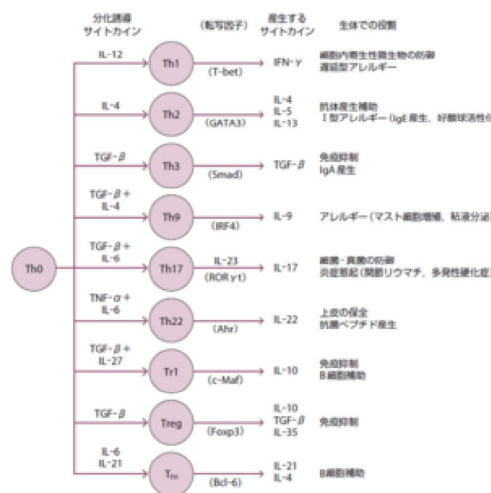
炎症性腸疾患の病態生理・その1 院内予習編 CD4細胞(T細胞)について

炎症性腸疾患の病態生理・その1 院内予習編 CD4細胞(T細胞)について



雑誌NEJMに、炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)の総説が載っていましたので、次回に纏めてみますが、その前にリンパ球、特にT細胞について勉強しましたので、ブログして皆さんと予習してみます。

- 1) CDマーカー: 白血球、特にリンパ球の表面分子を抗体法で分類したものです。野球の選手の背番号の様なもので、専門家でない私はそれだけではどのポジションで、何番バッターか分かりません。CD4がヘルパーT細胞(Th細胞)で、CD8がキラーT細胞(Tc細胞;細胞傷害性T細胞)です。CD4細胞の表面には抗原特異的レセプターがあり特異的に反応しますが、CD8つまりキラー細胞には一般的なレセプターがあり、広く一般的に感染細胞を攻撃します。
- 2) CD4つまりヘルパーT細胞(Th細胞)は、その主として産生するサイトカインの相違によっていくつかの亜群に分類されます。



←クリックで拡大

上の図は、ネットから引用しました。

- ・Th1細胞は、INF-γを産生しマクロファージや好中球を活性化させ、その貪食作用を増強します。更にB細胞が形質細胞に変化してからのIgMからIgGへのスイッチにもINF-γを分泌して関与します。
- ・Th2細胞は、B細胞が抗体を産生する形質細胞に変化する際に必要なサイトカインを分泌します。更にTh2細胞からのサイトカインだけではIgEだけを産生してアレルギーを引き起こしますが、Th1細胞の分泌するサイトカインと協力して、感染症に大事なIgGを産生します。つまり、感染症にもアレルギーにもTh1とTh2のバランスが大事です。

- 脳・神経・精神・睡眠障害(44)
- 整形外科・痛風・高尿酸血症(30)
- ワクチン(53)
- 癌関係(11)
- 脂質異常(28)
- 甲状腺・副甲状腺(18)
- 婦人科(8)
- 泌尿器・腎臓・前立腺(38)
- 熱中症(7)
- 日記(19)
- その他(70)

過去ログ

- 2021年07月(10)
- 2021年06月(16)
- 2021年05月(16)
- 2021年04月(14)
- 2021年03月(18)
- 2021年02月(19)
- 2021年01月(16)
- 2020年12月(17)
- 2020年11月(15)
- 2020年10月(17)
- 2020年09月(19)
- 2020年08月(14)
- 2020年07月(17)
- 2020年06月(14)
- 2020年05月(21)
- 2020年04月(18)
- 2020年03月(18)
- 2020年02月(18)
- 2020年01月(19)
- 2019年12月(14)
- 2019年11月(15)
- 2019年10月(18)
- 2019年09月(18)
- 2019年08月(14)
- 2019年07月(14)
- 2019年06月(16)
- 2019年05月(14)
- 2019年04月(18)
- 2019年03月(19)
- 2019年02月(19)
- 2019年01月(15)
- 2018年12月(16)
- 2018年11月(20)
- 2018年10月(20)
- 2018年09月(18)
- 2018年08月(24)
- 2018年07月(18)
- 2018年06月(18)
- 2018年05月(20)
- 2018年04月(19)
- 2018年03月(20)
- 2018年02月(14)
- 2018年01月(14)
- 2017年12月(20)
- 2017年11月(17)
- 2017年10月(22)
- 2017年09月(18)
- 2017年08月(20)
- 2017年07月(23)
- 2017年06月(19)

以降はカテゴリーで検索してください。

[RDF Site Summary](#)
[RSS 2.0](#)

- ・Th17細胞は、サイトカインのIL-17を分泌することから命名されています。このIL-17は局所の上皮や線維芽細胞に働き、そこからケモカインを分泌させ白血球やマクロファージを呼び寄せて炎症を起こさせます。
- ・Treg細胞は免疫反応を沈静化させます。
- ・Tfh細胞について
T細胞は免疫組織の中でT細胞領域に局在しており、B細胞が局在する濾胞とは別の場所に存在します。しかし抗原が侵入すると、活性化したT細胞の一部がTFH細胞となり、B細胞がいる濾胞へ移動します。そしてB細胞の働きを補助します。

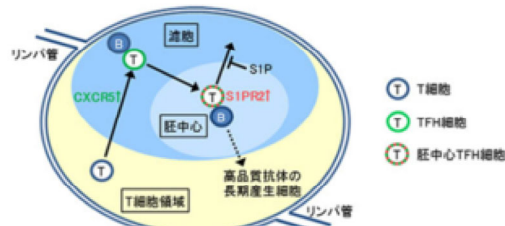


図1 リンパ節内におけるT細胞およびTFH細胞の動き

理化学研究所文献より

- 3) ナイーブ又は前駆細胞のTh0細胞は、Th1にもTh2にも変化可能な細胞です。どのような条件でどちらに変化するかは、局所反応とかサイトカインなどのいろいろな因子が考えられています。

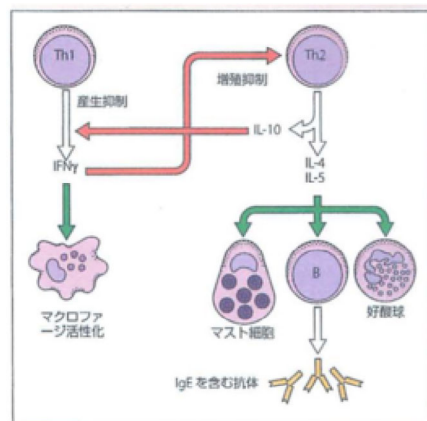
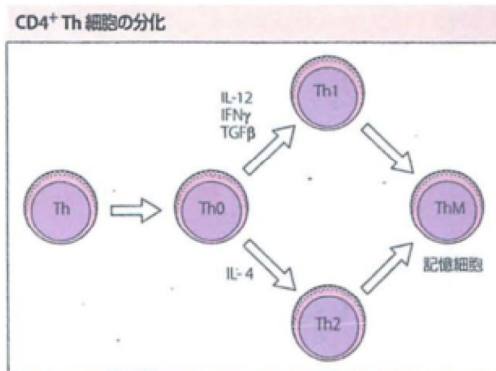


図11.11 Th1細胞とTh2細胞のサイトカインパターンは、異なるエフェクター経路を動かす。Th1細胞はマクロファージを活性化し、抗ウイルス応答と炎症反応に関与する。Th2細胞は液性応答とアレルギーに関与する。

私見)
下記のPDFも参照してください。

[免疫 ブログ編.pdf](#)

[免疫基礎編.pdf](#)

0

0

いいね!

 ブックマーク

【消化器・PPIの最新記事】

[大腸ファイバー検査の準備](#)

[過敏性腸症候群の食事](#)

[好酸球性胃腸炎](#)

[結腸憩室炎のガイドライン・medscap..](#)

[炎症性腸疾患の病態生理・その2](#)

posted by 斎賀一 at 20:03 | [Comment\(0\)](#) | [消化器・PPI](#)

この記事へのコメント
コメントを書く

お名前:

メールアドレス:

ホームページアドレス:

コメント:

確認する

書き込む

